

総合的な学習の時間 福祉（手話教育）について

相模原市立大野台中学校



単元（題材）目標

- 生徒一人一人が地域で障がいのある方々とのふれあいをおして、人の心のあたたかさや優しさにふれ、他者へのいたわりの気持ちをもつ。
- 共に生きる社会の一員として自分を生かしながら、自分にできることを実践していこうとする態度を身につける。
- 福祉の問題を自らの問題として受け止め、これからも積極的にかかわろうとする気持ちをもつ。

(1) 実施時期 10月～11月

(2) 対象（学年等・人数）

第1学年 108名（福祉体験講座の手話受講者は18名）



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年所属 5名

外部講師：市内聴覚障がい者の方 1名 手話通訳の方 1名

(4) 実施内容

【学年全体】

- ①福祉ガイダンスで「福祉とはなにか」を考えた。
- ②「障がい者理解促進DVDみんないいひと～みんなができる心のバリアフリー～」視聴
- ③絵本「わたしの妹はみみがきこえません」の朗読を聞き、耳が聞こえないとはどういうことなのか、耳の聞こえない人が困っていることや望んでいることなどを考えた。また、自分は何ができるか考えた。

【福祉体験講座：手話】

- ①講演会：「聴覚障がい者の理解」
- ②手話体験：希望者18名が手話実践
 - ・簡単な返事の仕方を学んだ。例（はい、いいえ）
 - ・自己紹介（自分の名字の手話を学び、実際に行った。）
 - ・ジェスチャー（正しい手話が分からないときや、相手が手話がわからない場合、身振り手振りで伝えることを学んだ。）

(5) 成果

- 手話が特別なものではなく、身近なコミュニケーションの1つとして捉えることができ、楽しく学んでいた。
- （生徒の声）手話は特別なものでとても難しいと思っていたけど、やってみたら意外と簡単だった。

(6) その他

本校平成29年度学校便り「こもれば通信」に手話を記載し家庭配付した。

